

# EGOTERIC

## AI-10

エソテリック製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

エソテリック製品は、最良の音質で末永くお使いいただくために、一台一台を厳しい品質管理のもとに製造しております。最良のコンディションでお使いいただくために、ご使用になる前にこの取扱説明書をよくお読みください。また、お読みになったあとは、いつでも見られるところに保証書と一緒に大切に保管してください。

末永くご愛用くださいますよう、お願い申し上げます。

# 安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

 <b>警告</b> 以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、火災や感電などによって、死亡や大怪我などの人身事故の原因となります。	
 電源プラグをコンセントから抜け	<b>万一、異常が起きたら</b> 煙が出たり、変なおいや音がするときは。 機器の内部に異物や水などが入ったときは。 この機器を落としたり、キャビネットを破損したときは。 すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。 異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。販売店または弊社サービス部門に修理をご依頼ください。
 禁止	<b>電源コードを傷つけない。</b> 電源コードの上に重いものをのせたり、コードを本機の下敷きにしない。 電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしない。 コードが破損すると火災・感電の原因となります。万一、電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)、販売店または弊社サービス部門に交換をご依頼ください。
	<b>電源プラグにほこりをためない。</b> 電源プラグとコンセントの間にゴミやほこりが付着すると、火災・感電の原因となります。電源プラグを抜いてから、ゴミやほこりを取り除いてください。
	<b>交流100ボルト以外の電圧で使用しない。</b> この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧(交流100ボルト)以外の電圧で使用しないでください。また、船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災・感電の原因となります。
	<b>機器の上に花瓶や水などが入った容器を置かない。</b> 内部に水が入ると火災・感電の原因となります。

	<b>警告</b>	以下の内容を見逃して誤った取り扱いをすると、火災や感電などによって、死亡や大怪我などの人身事故の原因となります。
	分解禁止	この機器のカバーは絶対に外さない。 カバーを開けたり改造すると、火災・感電の原因となります。内部の点検・修理は販売店または弊社サービス部門にご依頼ください。
	強制	この機器を設置する場合は、壁から20cm以上の間隔をおく。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置く。 ラックなどに入れるときは、機器の天面から5cm以上、背面から10cm以上のすきまをあける。 内部に熱がこもり、火災の原因となります。

	<b>注意</b>	以下の内容を見逃して誤った取り扱いをすると、感電やその他の事故によって、怪我をしたり、周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。
	強制	オーディオ機器、スピーカー等の機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続する。 また、接続は指定のコードを使用する。
		電源を入れる前には音量を最小にする。 突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
		この機器は約14.5kgあり大変重いので、開梱や持ち運びの際はけがをしないように注意する。
		この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグに簡単に手が届くようにする。 異常が起きた場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。

# 安全にお使いいただくために



## 注意

以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、感電やその他の事故によって、怪我をしたり、周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。



禁止

ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない。  
湿気やほこりの多い場所に置かない。  
調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所に置かない。  
火災・感電やけがの原因となることがあります。

電源コードを熱器具に近付けない。  
コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。  
感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない。  
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。



電源プラグを  
コンセントから  
抜け

移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外す。  
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

旅行などで長期間この機器を使用しないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く。

お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜く。  
感電の原因となることがあります。



愛情点検

電源ケーブルや本体に異常がないか、定期的に点検してください。  
5年に1度は、販売店または弊社サービス部門に内部の点検をご依頼ください。  
費用についてはお問い合わせください。

## 目次

## お使いになる前に

安全にお使いいただくために	2
目次	5
お使いになる前に	5
スピーカーとの接続	6
接続	8
SA-10との接続例	11
各部の名称 (本体)	12
各部の名称 (ディスプレイ)	13
各部の名称 (リモコン)	14
リモコンについて	15
基本操作	16
ワードシンク	18
アナログ入力のゲイン設定	19
入力切換の端子名とスキップの設定	20
ワード出力周波数と音量の設定	21
i.LINKの設定*	22
i.LINK (IEEE1394)*	23
工場出荷時の状態に戻すには	24
困ったときは	24
仕様	26
保証とアフターサービス	27

\* : i.LINK端子に関係する機能は、将来AI-10を有償バージョンアップしてi.LINK端子を増設すると使えるようになります。

Super Audio CDとDSDは登録商標です。

「i.LINK」は、IEEE1394-1995仕様およびその拡張仕様を示す呼称です。は、i.LINKに準拠した製品につけられるロゴです。「i.LINK」とはソニー株式会社の商標です。

## 付属品の確認

万一、付属品に不足や損傷がありましたら、お買い上げになった販売店または弊社サービス部門にご連絡ください。

電源コード×1  
リモコン(RC-1056)×1  
リモコン用乾電池(単3)×2本  
フェルト×3枚  
取扱説明書×1  
ご愛用者カード×1

## 使用上の注意

- 本機の上には物を置かないでください。
- 直射日光が当たる場所や暖房器具の近くなど、温度が高くなるところに置かないでください。また、アンプなど熱を発生する機器の上には置かないでください。
- 安定した場所に設置してください。
- テレビ放送の電波状態により、本機の電源を入れたままテレビをつけると画面にしま模様が出る場合がありますが、本機やテレビの故障ではありません。このような場合は本機の電源を切ってください。
- 床を傷付けたくない場合は、脚の裏に付属のフェルトを貼ってお使いください。
- この機器の電源プラグがコンセントに差し込まれた状態で、STANDBY/ONスイッチがスタンバイのときは、待機電力が消費されます。この機器をお使いにならないときは、本体の電源スイッチをオフにしてください。

## お手入れ

トップカバーやパネル面の汚れは、薄めた中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いたあと、固く絞った布で水拭きしてください。

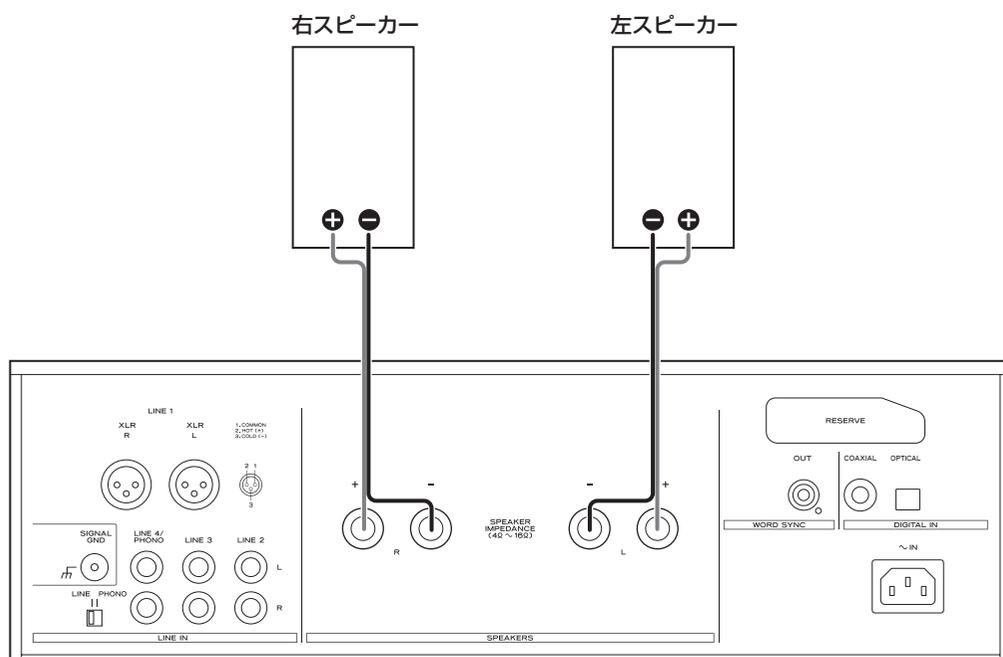
ゴムやビニール製品を長時間触れさせると、キャビネットを傷めることがありますので避けてください。化学ぞうきんやベンジン、シンナーなどで拭かないでください。表面を傷める原因となります。

 **お手入れは安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。**

# スピーカーとの接続

## ⚠ 接続時の注意

- 全ての接続が終わってから電源プラグを差し込んでください。
- 接続する機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。



## スピーカーケーブルについて

- 接続には、市販のスピーカー専用ケーブルをお使いください。
- スピーカーケーブルはできるだけ短いものをご用意ください。ケーブルは長くなるほど抵抗値が増加し、ダンピング特性が劣化します。また、インダクタンスやキャパシタンスも増加し、高域の音質が劣化します。
- 左右のスピーカーケーブルは、同じ長さの物を使用してください。

## 接続方法

市販のスピーカーケーブルを使って、本機とスピーカーの+端子同士、-端子同士を接続してください。

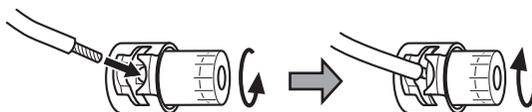
- 本機にはWBT社製のスピーカー接続端子を採用しています。スピーカー端子のつまみは、左に回すとゆるみ、右に回すと締まります。
- スピーカーケーブルの先端の芯線が露出している部分が、他のコードや端子と接触すると、ショートすることがあります。スピーカーケーブルは絶対にショートさせないでください。

エソテリックでは、リファレンスとして**エソテリック MEXCEL ストレスフリー7N**ケーブルを使用しています。エソテリック MEXCELケーブルシリーズは、以下のものが発売されています。

RCAオーディオケーブル	XLRデジタルケーブル
XLRオーディオケーブル	BNCデジタルケーブル
RCAデジタルケーブル	スピーカーケーブル

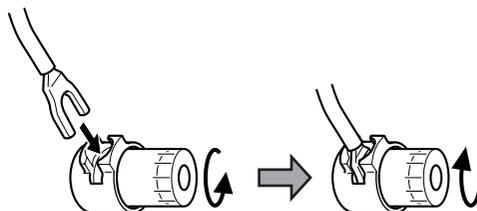
## より線の場合

- つまみをゆるめ、ターミナルの奥の穴に芯線を差し込み、つまみを締めます。
- 差し込める線の太さは、最大で4mmまでです。



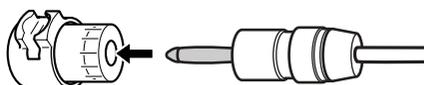
## Yラグの場合

- つまみをゆるめ、ターミナルの差し込み口に端末を差し込み、つまみを締めます。
- ラグ端子で接続する場合は、内径8mm以上のものをご使用ください。



## バナナプラグの場合

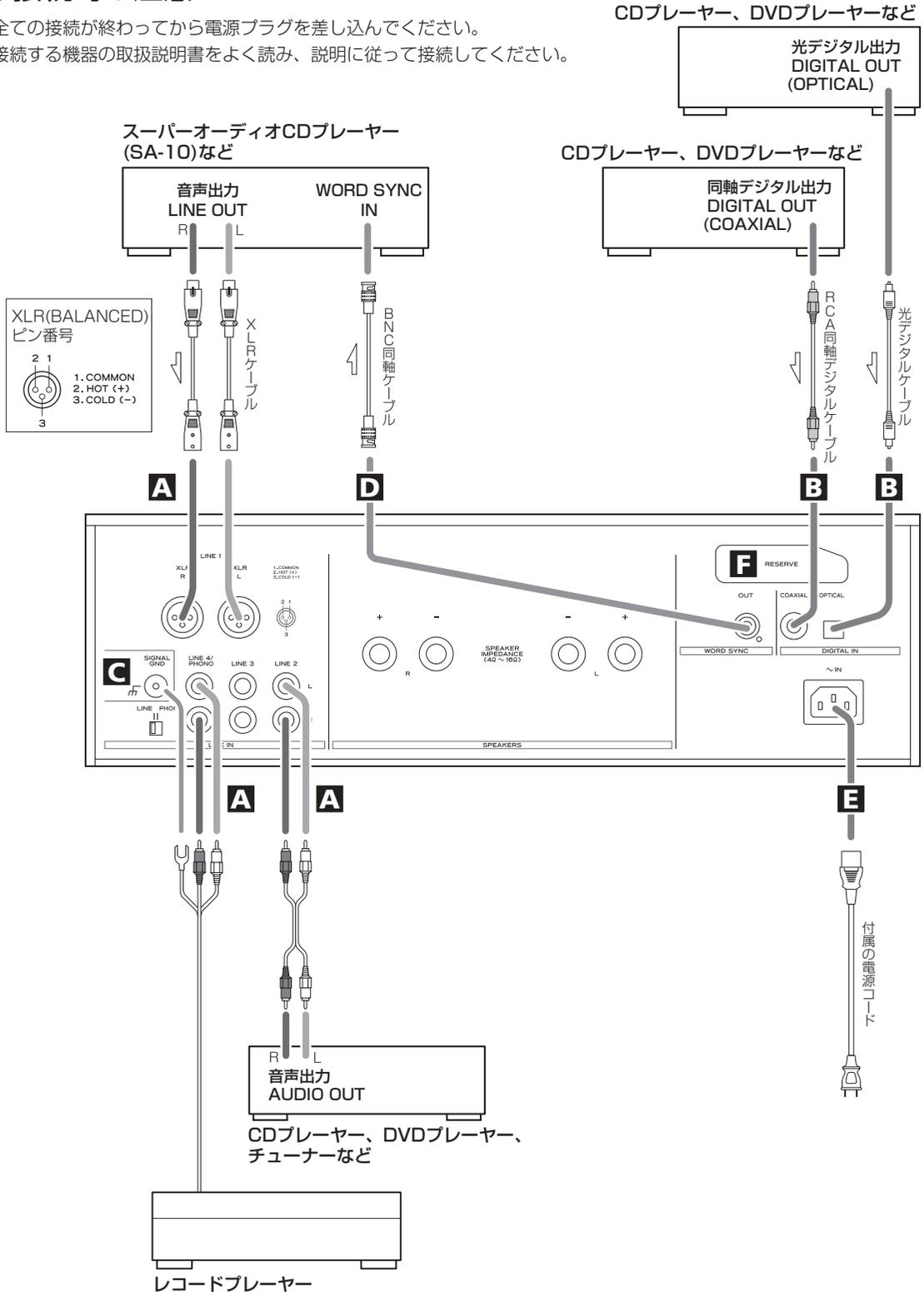
- 端子正面の差し込み口に端末を差し込みます。
- つまみを締めた状態でご使用ください。
- ご使用になるバナナプラグの説明書をよくお読みください。



# 接 続

## ⚠ 接続時の注意

- 全ての接続が終わってから電源プラグを差し込んでください。
- 接続する機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。



**A アナログ音声入力端子 [LINE IN]**

アナログの音声を入力します。スーパーオーディオCDプレーヤー、DVDプレーヤー、カセットデッキ、チューナーなどの音声出力端子と接続してください。

市販のバランス型XLRケーブルまたはRCAオーディオケーブルを使って、本機のR端子と再生機器のR端子、本機のL端子と再生機器のL端子をそれぞれ接続してください。

**LINE4/PHONO端子**

LINE4/PHONO端子には、カセットデッキやチューナーだけでなく、レコードプレーヤーを接続することもできます。

レコードプレーヤーのアースは、必ず本機のアース端子(SIGNAL GND)と接続してください。

レコードプレーヤーのカートリッジは、MM型またはMM型相当の出力レベルのカートリッジをお使いください。

**LINE/PHONO切換スイッチ**

LINE4/PHONO端子にレコードプレーヤーを接続する場合は、スイッチをPHONOにしてください。

他の機器(カセットデッキなど)を接続する場合は、スイッチをLINEにしてください。

**B デジタル音声入力端子 [DIGITAL IN]**

CDやDVDのデジタル音声を入力します。

デジタル再生機器(SA-10など)のデジタル出力端子と接続してください。

**接続には市販のケーブルをお使いください。**

RCA : RCA同軸デジタルケーブル

OPTICAL : 光デジタルケーブル

- 本機の光デジタル端子はシャッター式です。接続するときは、端子の向きを合わせてしっかりと差し込んでください。誤った向きで無理に差し込むと、端子が変形してシャッターが閉まらなくなることがありますのでご注意ください。
- スーパーオーディオCDのデジタル音声は、デジタル端子(RCA端子とOPTICAL端子)では入出力できません。
- 本機にはデコード機能がありませんので、接続した機器(DVDプレーヤーなど)のデジタル出力の設定は「PCM」にしてください。

**C アース端子[GND]**

市販のビニール電線でプレーヤーやスピーカーなどとアース接続すると、音質が良くなることがあります。

- 安全アースではありません。
- LINE4/PHONO端子にレコードプレーヤーを接続するときは、必ず本機のアース端子をレコードプレーヤーのアースと接続してください。

**D ワードシンク出力端子 [WORD SYNC]**

同期信号(ワードクロック)を出力します。

デジタル機器のWORD SYNC IN端子と接続してください。

接続には市販のBNC同軸デジタルケーブル(インピーダンスが75Ωのもの)をお使いください。

**E 電源コード**

電源コード接続ソケットに付属の電源コードを差し込んでください。全ての接続が終わったら、電源プラグをAC100Vの電源コンセントに差し込んでください。

- 本機の電源コード接続ソケットは3ピン仕様になっていますが、アースピンはシャーシには接続されていません。

**⚠** エソテリック純正の電源コード以外は使わないでください。火災や感電の原因になることがあります。また、長期間使用しないときは、コンセントから電源プラグを抜いておいてください。

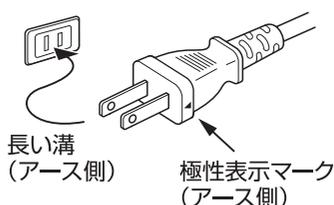
(次ページに続く→)

# 接 続 (続き)

## 電源の極性管理について

本機はより良い音質を得るために、電源の極性管理をしています。電源コードのプラグ部分に、極性管理用の極性表示マーク(▲)が付いています。本機では、印の付いている方がアース側です。

一般的に、家庭用電源コンセントの差し込み口は、長い溝の方がアース側です。極性表示マークが付いている側の差し込み刃をコンセントの長い溝の方に差し込んでください。なお、極性管理されていない電源コンセントに接続するときは、電源プラグを逆に差し込んでみるなどの方法で音質の良い方を選択してください。



## F RESERVE (i.LINK端子増設用スロット)

将来AI-10を有償バージョンアップすると、ここにi.LINK(AUDIO)端子が増設されます。

- i.LINK(AUDIO)端子 6ピン×1
- i.LINK(AUDIO)端子 4ピン×1

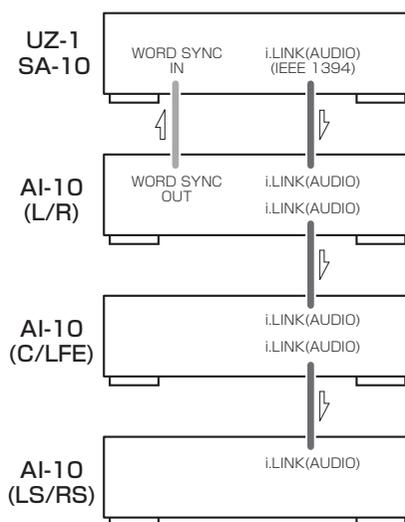
i.LINK(AUDIO)端子があれば、CDやDVDだけでなく、スーパーオーディオCDの音声もデジタルで入出力することができます。

市販のS400対応の、6ピンまたは4ピンのi.LINKケーブル(IEEE1394ケーブル)を使って、デジタル再生機器(UZ-1、有償バージョンアップ後のSA-10など)のi.LINK(AUDIO)端子(IEEE1394端子)と接続してください。

有償バージョンアップ後に複数のAI-10を接続すると、スーパーオーディオCDやDVDビデオ、DVDオーディオをサラウンドで再生することができます。

まず、再生機器(UZ-1や有償バージョンアップ後のSA-10)のi.LINK(AUDIO)端子をAI-10のi.LINK(AUDIO)端子と接続します。次に、AI-10のもうひとつのi.LINK(AUDIO)端子を、もう1台のAI-10と接続します。3台目も同様に、数珠つなぎに接続します(順不同)。

ワードシンク端子は、チャンネルをL/Rに設定したAI-10のWORD SYNC OUT端子を、再生機器のWORD SYNC IN端子と接続してください。



## UZ-1/SZ-1/有償バージョンアップ後のSA-10の設定

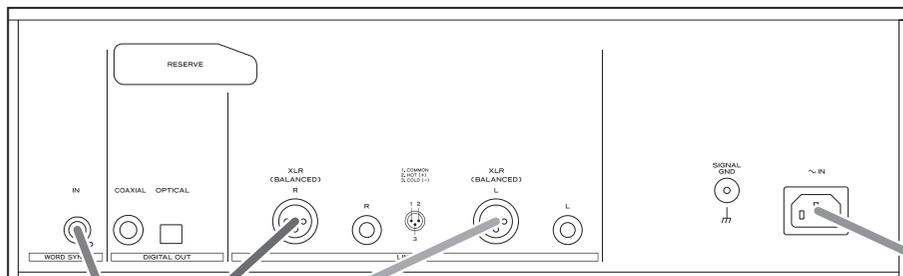
i.LINKボタン	PCM
WORDボタン	ON
アナログ音声出力(設定)	Multi ch
デジタル音声出力(設定)	ON
CDダイレクト(設定)	Normal
スピーカー設定	必要

## AI-10の設定

INPUT	i.LINK
WORDボタン	再生機器と接続したAI-10はW_OUT(オン)、残りのAI-10はOFF。
ワード出力周波数(設定)	176.4または88.2
チャンネル(設定)	該当するチャンネル
i.LINKリモート機能(設定)	ON

# SA-10との接続例

## SA-10

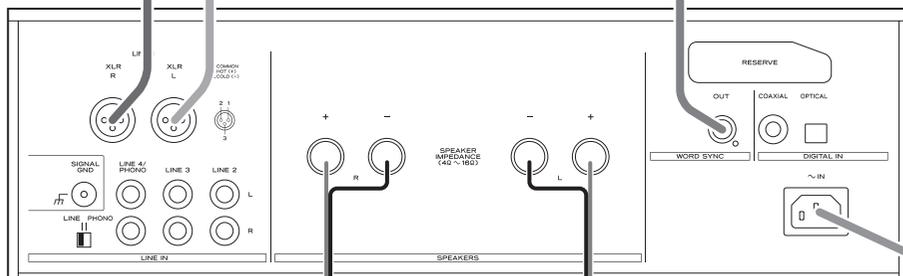


XLRまたはRCAのアナログ音声端子(LINE IN/OUT)を接続します。

AI-10とSA-10を有償バージョンアップした場合は、アナログ音声端子の代わりにi.LINK(AUDIO)端子を接続することもできます。

ワードシンク端子(WORD SYNC)を接続します。

## AI-10



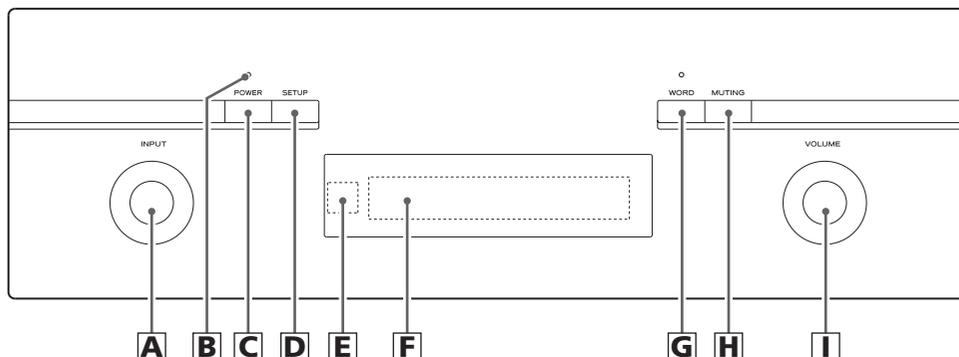
右スピーカー

左スピーカー

電源コンセント

付属の電源コード

# 各部の名称 (本体)



## **A** 入力切換 [INPUT]

入力を切り換えます。再生する機器が接続されている端子を選んでください。  
設定モードのときは、設定の変更に使います。

## **B** 電源インジケータ

電源の状態を表します。

### 青：オン

本体の電源ボタンがオンのときは、青く点灯します。

### 赤：スタンバイ状態

本体の電源ボタンがオンのときに、リモコンのSTANDBYボタンを押すとスタンバイ状態になります。インジケータが赤く点灯しているときにリモコンのONボタンを押すと、インジケータが青に変わります。

### 消灯：オフ

本体の電源ボタンがオフのときは、消灯します。

## **C** 電源ボタン [POWER]

電源のオンとオフを切り換えます。  
本機を使わないときは、電源をオフにしてください。

## **D** セットアップボタン [SETUP]

このボタンを押すと設定モードになります。  
(19～22ページ)

## **E** リモコン受光部

リモコンからの信号を受信します。リモコンを使用するときは、リモコンの先端をこちらに向けて操作してください。(15ページ)

## **F** ティスプレー

## **G** ワードボタン [WORD]

ワード出力のオン/オフを切り換えます。(18ページ)  
オンのときは、インジケータが点灯します。

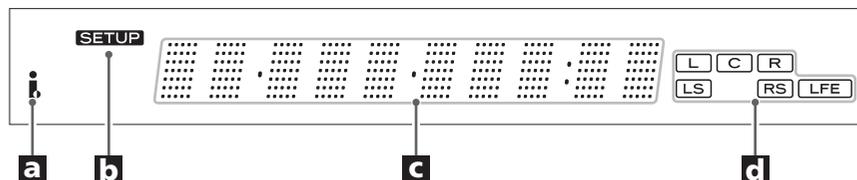
## **H** ミュート [MUTING]

一時的に音を小さくします。(17ページ)

## **I** 音量つまみ [VOLUME]

音量を調節します。

## 各部の名称 (ディスプレイ)



### **a** i.LINKインジケータ

本機を有償バージョンアップした場合、入力切換がi.LINKのとき、またはi.LINKリモートコントロール機能(22ページ)がオンのときに点灯します。信号を感知できない場合は、点滅します。

### **b** セットアップインジケータ

設定中に点灯します。

### **c** メッセージ表示部

通常は、ディスプレイの左側に「現在の入力」、右側に音量が表示されます。

入力切換が「OPT」または「COAX」のときに、デジタル信号を感知できないと、「OPT」または「COAX」が点滅します。接続した機器の電源をオンにしてください。

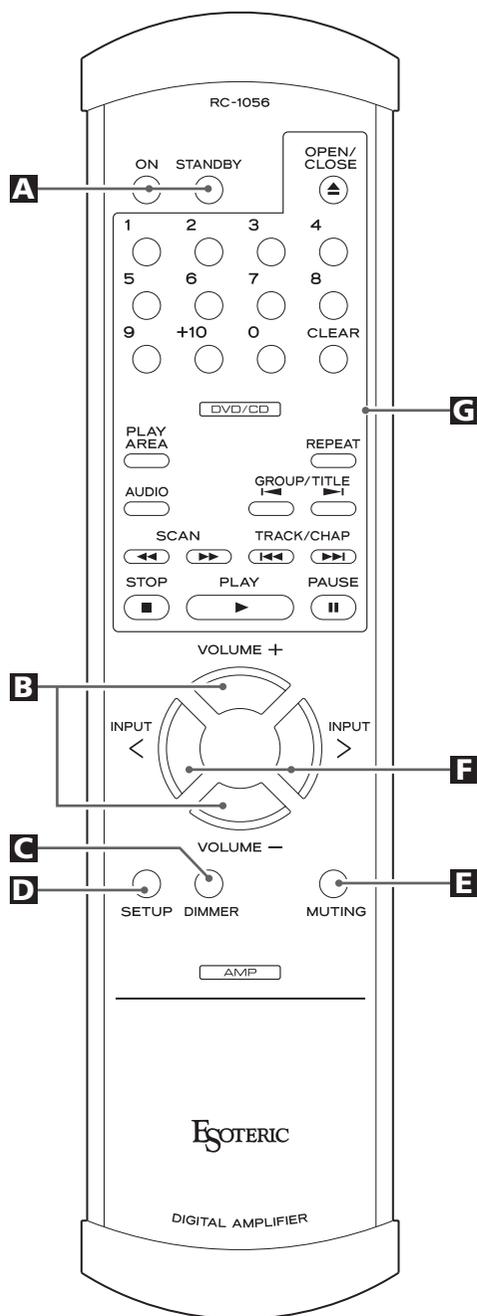
本機を有償バージョンアップしてi.LINK端子を使用する場合、通常はディスプレイの左側にi.LINKケーブルで接続された機器の「機種名」、右側に音量が表示されます。

i.LINKケーブルで接続されている機器の機種名が不明なときは、「UNKNOWN」が表示されます。

### **d** チャンネルインジケータ

本機を有償バージョンアップした場合、入力切換がi.LINKのときに、チャンネルの設定(22ページ)で選んだチャンネルのアイコンが点灯します。

# 各部の名称 (リモコン)



本体とリモコンに同じ機能のボタンがある場合、この取扱説明書では本体のボタンを使って説明していますが、リモコンのボタンも同様に使えます。

## A スタンバイボタン [STANDBY/ON]

本体の電源ボタンがオンのときに、リモコンのONボタンを押すとオンに、STANDBYボタンを押すとスタンバイに切り換わります。スタンバイ状態のときは、本体の電源インジケーターが赤く点灯します。

ONボタンを押すと、リモコンの白いボタンが数秒間点灯します。

## B 音量 [VOLUME]

音量を調節します。

## C ディマーボタン [DIMMER]

本体のディスプレイの明るさを4段階で調節できます。(17ページ)

## D セットアップボタン [SETUP]

「ワード出力周波数と音量の設定」に使います。(21ページ)

19、20ページの設定では使えませんので、本体のSETUPボタンをお使いください。

## E ミュート [MUTING]

一時的に音を小さくします。(17ページ)

## F 入力切替 [INPUT]

入力を切り換えます。再生する機器が接続されている端子を選んでください。

## G SA-10/UZ-1/SZ-1の操作ボタン

これらのボタンで、エソテリックのSA-10、UZ-1、またはSZ-1を操作することができます。

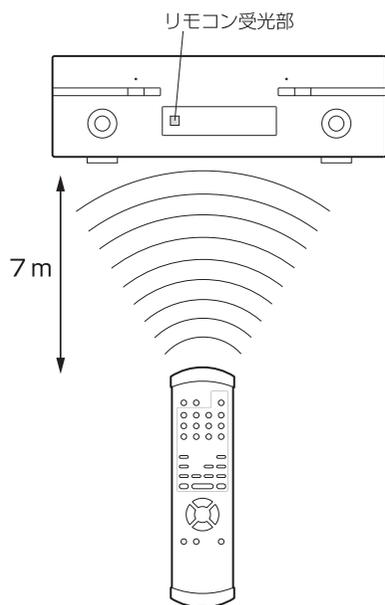
これらのボタンを押すときは、リモコンの先端をSA-10、UZ-1、またはSZ-1のリモコン受光部に向けてください。

このリモコンにないボタンが必要なときは、各機器専用のリモコンをお使いください。

# リモコンについて

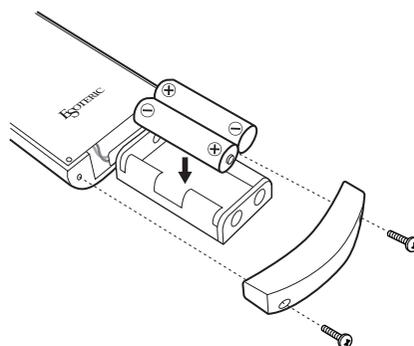
## 使用上の注意

- リモコンの先端を本体のリモコン受光部に向けて、7メートル以内の距離で操作してください。本体とリモコンの間には障害物を置かないでください。また、角度により受信しにくい場合もありますので、できるだけ正面から操作してください。
- エンテリックのSA-10、UZ-1、またはSZ-1用のボタンを使うときは、リモコンの先端をSA-10、UZ-1、またはSZ-1のリモコン受光部に向けてください。
- リモコンの受光部に直射日光や照明の強い光が当たっていると、リモコン操作ができないことがあります。
- 本機のリモコンを操作すると、赤外線によりコントロールする他の機器を誤動作させることがありますのでご注意ください。



## 電池の入れ方

ドライバーを使ってリモコン下部のフタを外し、電池ケースを引き出してください。⊕と⊖の向きを確認して乾電池(単3形)2本を入れたら、電池ケースを戻し、フタを閉めてください。



## 電池の交換時期

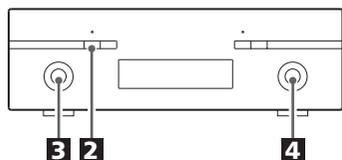
操作範囲が狭くなったり、操作キーを押しても動作しない場合は、2本とも新しい電池に交換してください。

## ⚠ 電池についての注意

電池を誤って使用すると、液もれや破裂などの原因となることがあります。以下の注意をよく読んでご使用ください。

- 乾電池の⊕と⊖の向きを、電池ケースに表示されているとおりに正しく入れてください。
- 新しい乾電池と古い乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池は絶対に充電しないでください。
- 長い間(1ヶ月以上)リモコンを使用しないときは、電池を取り出しておいてください。
- 液もれを起こしたときは、ケース内に付いた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。

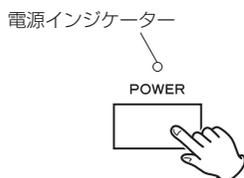
# 基本操作



## 1 接続した機器の電源をオンにする。

本機より先に、接続した機器の電源をオンにしてください。

## 2 本機の電源をオンにする。

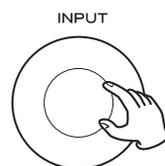


電源インジケータ(青)が点灯します。

電源インジケータが赤く点灯している場合は、リモコンのONボタンを押して電源をオンにしてください。(14ページ)

- 電源をオンにした直後の数秒間は、音が出ません。「WAIT...」が消えるまでお待ちください。

## 3 INPUTつまみを回して入力を選ぶ。



つまみを回すたびに入力が切り換わり、端子名がディスプレイの左側に表示されます。再生する機器が接続されている端子を選んでください。

COAX、OPT、LINE1、LINE2、  
LINE3、LINE4またはPHONO\*、  
(i.LINK\*\*)

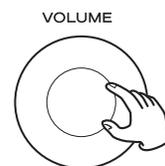
\*：出荷時の設定では、本体背面のLINE/PHONO切換スイッチ(9ページ)がLINEのときは「LINE4」、PHONOのときは「PHONO」が表示されます。

- 「OPT」または「COAX」を選んだ場合、デジタル信号を感知できないと、「OPT」または「COAX」が点滅します。接続した機器の電源をオンにし、接続を確認してください。

- ディスプレーに表示される端子名は変更することができます。(20ページ)

\*\*：本機を有償バージョンアップすると、入力切換にi.LINKが追加されます。i.LINKを選んだ場合、デジタル信号を感知できないとi.LINKインジケータが点滅します。接続した機器の電源をオンにし、接続を確認してください。

## 4 ソースを再生して音量を調節する。



音量は右に回すと大きくなり、左に回すと小さくなります。

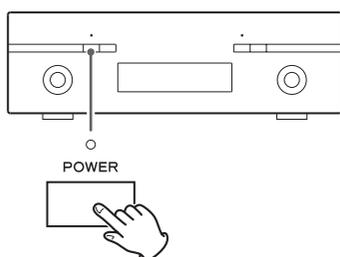
突然大きな音が出ると、聴覚障害などの原因になることがあります。音量は最小にしておいて、音を出してから適切な音量に調節するようにしてください。

## 電源をオフにするときは

不用意に電源を切るとスピーカーからノイズが出ることがあります。本機の電源をオフまたはスタンバイにするときは、以下の手順に従ってください。

**1** 接続した機器が再生中の場合は、再生を停止する。

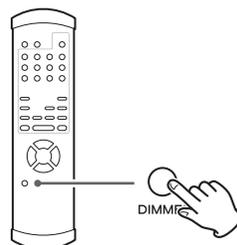
**2** 本機の電源をオフまたはスタンバイにする。



リモコンのSTANDBYボタンを押した場合は、スタンバイになります。

**3** 接続した機器の電源をオフまたはスタンバイにする。

## FLディマー

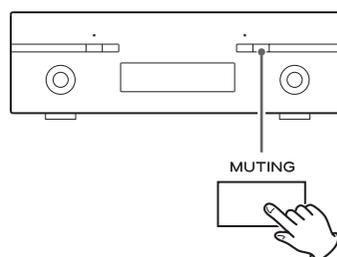


リモコンのDIMMERボタンを押すと、本体のディスプレイの明るさを4段階で調節できます。



- 消灯の状態では電源を切ると、次に電源を入れたときは「FL Dimmer1」になります。
- 消灯中に音量を変えたりすると、約3秒間だけディスプレイが点灯します。

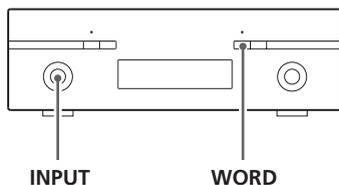
## ミュート（消音）



MUTINGボタンを押すと、一時的に音を消すことができます。もう一度押すと元の音量に戻ります。

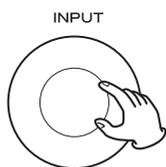
- ミュート中は、ディスプレイに「MUTING」と入力端子名が交互に表示されます。

# ワードシンク

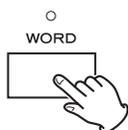


エンテリックのSA-10など、ワード入力端子のある機器をAI-10と同期させて再生するときに使用します。ワードシンクのオン/オフを、入力ごとに設定することができます。

## 1 INPUTつまみを回して入力を選ぶ。



## 2 WORDボタンを押す。



WORDボタンを押すたびに、ワードシンクのオンとオフが切り換わります。

- 設定した内容は、電源プラグを抜いた状態で放置しても半永久的に保持されます。

## W\_OUT+周波数（オン）

内部でワードクロックを生成して出力します。WORDボタンのインジケータが点灯します。

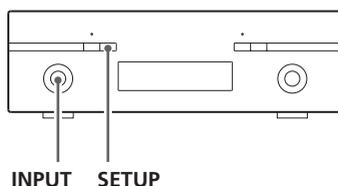
出力するワードクロックの周波数は、21ページの手順で変更できます。

- あらかじめWORD SYNC端子を接続しておいてください。
- クロックの感知中は「WRD CHKING」が表示されます。クロックの感知には数秒かかります。入力されているデジタル信号とワードクロックが正しく同期できていない場合は「WRD ERROR!」が表示されません。

## WORD OFF（オフ）

ワードシンクを使用しません。WORDボタンのインジケータは消灯します。

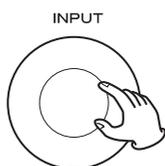
# アナログ入力のゲイン設定



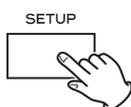
アナログ音声入力端子に接続された機器からの入力レベルの差を低減し、通常使うボリューム位置を大きく変化させる手間を省くために、各アナログ入力(LINE 1、LINE 2、LINE 3、LINE 4/PHONO)に対して、ボリューム値のオフセットを設定することができます。

## 1 INPUTつまみを回して、オフセットを設定したい入力を選ぶ。

LINE 1、LINE 2、LINE 3、またはLINE 4/PHONOを選んでください。



## 2 SETUPボタンを2秒以上押し続ける。



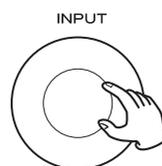
ディスプレイの表示が変わったら指を離してください。

「Gain\*\*>\*\*\*」が表示されます。

(\*\*の部分には **1** で選んだ入力(L1~L4)が表示されます。\*\*\*の部分は現在のオフセット値です。設定によって異なります)

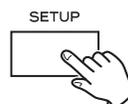
- 10秒以上放置すると、設定モードは解除されて通常の表示に戻ります。

## 3 INPUTつまみを回して、オフセット値を変更する。



0、+3、+6、+9、+12、+15、+18、+21、+24の中から選んでください。

## 4 SETUPボタンを2秒以上押して、設定を終了する。

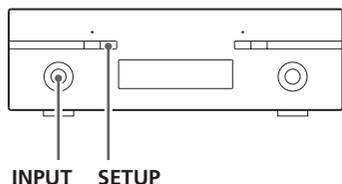


ディスプレイが通常の表示に戻ります。

10秒以上放置した場合も、設定を終了します。

- 設定した内容は、電源プラグを抜いた状態で放置しても半永久的に保持されます。
- SETUPボタンを軽く押した場合は、「入力切換の端子名とスキップの設定」(20ページ)の **1** の状態になりますので、続けて設定できます。

# 入力切換の端子名とスキップの設定

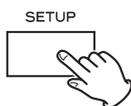


入力切換つまみ(INPUT)をまわしたときにディスプレイに表示される端子名を、あらかじめ登録された名前(CDなど)に変更することができます。

機器が接続されていない端子は、入力切換つまみ(INPUT)をまわしたときにスキップするように設定することもできます。

たとえば、COAX端子にCDプレーヤー、OPT端子にDVDプレーヤーを接続している場合、COAX端子を「CD」、OPT端子を「DVD」、その他の端子を「\*skip(スキップ)」に設定すると、入力切換つまみ(INPUT)をまわしたときに「CD」と「DVD」だけが表示されるので、目的の端子を選びやすくなります。

## 1 SETUPボタンを2秒以上押し続ける。

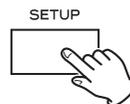


ディスプレイに「L-1>\*\*\*」が表示されたら指を離してください。(\*\*\*の部分は設定によって異なります)

入力切換がLINE(1~4)またはPHONOだった場合は、SETUPボタンを2秒押すと「GainL\*>\*\*\*」が表示されます。SETUPボタンをもう1回軽く押して、「L-1>\*\*\*」を表示させてください。

- 10秒以上放置すると、設定モードは解除されて通常の表示に戻ります。

## 2 SETUPボタンをくり返し押して、変更する端子を選ぶ。

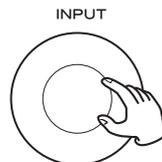


SETUPボタンを軽く押す度に、ディスプレイの左側の表示が変わります。

L-1(LINE1) → L-2(LINE2) → L-3(LINE3)  
→ L-4(LINE4) → i-L(i.LINK)\* → C-1(COAX)  
→ O-1(OPT) → (通常の表示)  
→ L-1(LINE1) → ……

\*: AI-10を有償バージョンアップすると、「i-L」が追加されます。

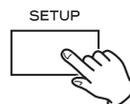
## 3 INPUTつまみを回して、設定を変更する。



出荷時の端子名、CD、SACD、DVD、TUNER、MD、CD-R、TAPE、PHONO、MP3、TV、SAT、CATV、DVD-R、VCR、\*skip(スキップ)

- LINE4端子の「出荷時の端子名」は、本体背面のLINE/PHONO切換スイッチがLINEのときは「LINE4」、PHONOのときは「PHONO」になります。
- i.LINK端子の場合は、接続した機器の「機種名」が常に表示されますので、名前は変更できません。スキップは設定できます。
- 全ての端子を「\*skip」に設定すると、スキップは機能しません。

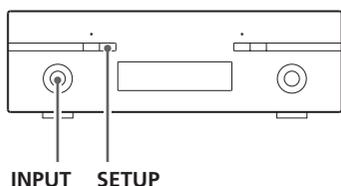
## 4 SETUPボタンを2秒以上押して、設定を終了する。



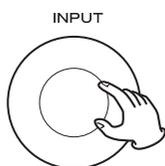
ディスプレイが通常の表示に戻ります。  
10秒以上放置した場合も、設定を終了します。

- 設定した内容は、電源プラグを抜いた状態で放置しても半永久的に保持されます。

# ワード出力周波数と音量の設定

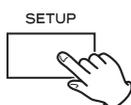


- 1** WORD出力周波数を変更する場合は、INPUTつまみを回して入力を選ぶ。



- 電源オン時の音量は、全ての入力に適用されます。入力ごとに設定することはできません。

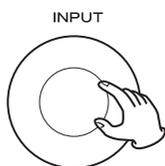
- 2** SETUPボタンをくり返し押して、変更する項目を選ぶ。



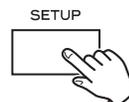
SETUPボタンを押す度に、ディスプレイの表示が変わります。

- 10秒以上放置すると、設定モードは解除されて通常の表示に戻ります。

- 3** INPUTつまみを回して、設定を変更する。



- 4** 通常の表示になるまでSETUPボタンをくり返し押して、設定を終了する。



SETUPボタンをくり返し押して、ディスプレイを通常の表示に戻してください。

または、10秒以上放置すれば通常の表示に戻ります。

- 設定した内容は、電源プラグを抜いた状態で放置しても半永久的に保持されます。

## 変更できる項目と設定

### ワード出力周波数 (W\_OUT)

WORDボタン(18ページ)でW\_OUT(オン)を選択したときに出力するワードの周波数(kHz)を、入力ごとに設定することができます。

出荷時は100に設定されています。

100 ↔ 44.1 ↔ 88.2 ↔ 176(176.4)  
↔ 48 ↔ 96 ↔ 192

### 電源オン時の音量 (S\_VOL)

#### OFF(出荷時の設定)

前回電源をオフにしたときの音量になります。

#### --- ~ -20dB

電源をオンにしたときの音量を、あらかじめ設定しておくことができます。

--- (-∞) ~ -20dBの範囲で、1dB刻みに調節できます。

#### (通常の表示)

設定を終了します。

# i.LINKの設定 (有償バージョンアップ後)

AI-10を有償バージョンアップすると、21ページの「電源オン時の音量(S\_VOL)」の後に、「チャンネル(CH)」と「i.LINKリモート機能(i\_RC)」が追加されます。設定の手順については、21ページをお読みください。

## チャンネル (CH)

入力切換がi.LINKのときに、本機が受けるチャンネルを選びます。

出荷時はL/Rに設定されています。

L/R：フロント左とフロント右

C/LFE：センターとサブウーハー

LS/RS：サラウンド左とサラウンド右

選択したチャンネルのアイコンが点灯します。



## i.LINKリモート機能 (i\_RC)

複数のAI-10がi.LINKケーブルで接続されているときにi.LINKリモート機能を使うと、1台のAI-10を操作するだけで他のAI-10の音量、ミュート、FLディマーを連動させることができます。

この機能はAI-10がi.LINKケーブルで接続されていれば使えますので、入力はi.LINK以外を選んでも構いません。

### ON

L/Rチャンネルに設定されているAI-10を操作すると、他のAI-10の音量、ミュート、FLディマーが連動します。

### MASTR

#### SLAVE

1台のAI-10をMASTR、残りのAI-10をSLAVEに設定すると、MASTRに設定したAI-10を操作するだけで、SLAVEに設定されたAI-10の音量、ミュート、FLディマーを連動させることができます。

チャンネルの設定とは関係ありません。

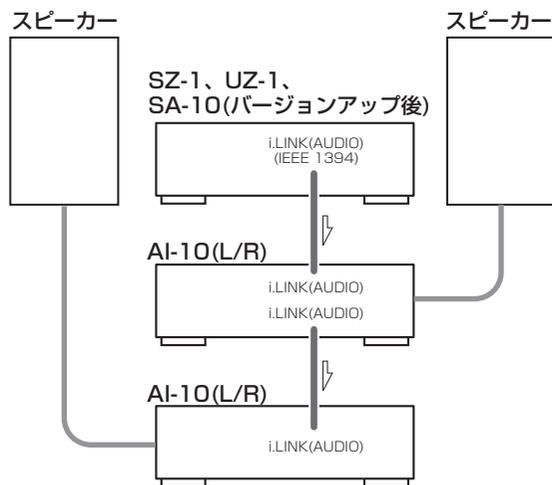
### OFF(出荷時の設定)

i.LINKリモート機能を使わないときに選んでください。

音量、ミュート、FLディマーは連動しません。

入力をi.LINKにしたときだけ、i.LINK回路に電源が入ります。

AI-10が2台ある場合に、i.LINKケーブルと左右のスピーカーを下の図のように接続すると、1台をLチャンネル専用アンプ、もう1台をRチャンネル専用アンプとして使用することができます。



チャンネル設定は2台とも「L/R」にしてください。

i.LINKリモート機能は、1台のAI-10をMASTR、もう1台のAI-10をSLAVEに設定してください。

# i.LINK (IEEE1394) (有償バージョンアップ後)

将来AI-10を有償バージョンアップすると、i.LINK (AUDIO)端子が増設されます。

i.LINKとは、国際標準規格であるIEEE1394の別称です。本機のi.LINK (AUDIO)端子にi.LINK (AUDIO)対応機器をi.LINKケーブルで接続すると、2chリニアPCM信号やマルチチャンネルの圧縮オーディオ信号に加え、従来アナログでしか伝送できなかったスーパーオーディオCDのマルチチャンネル信号をデジタルのまま伝送することができます。複数のi.LINK対応機器を接続する場合、他の機器を経由して接続してもデータのやりとりが可能ですので、接続順序を意識する必要がありません。

## 著作権保護システムDTCP

i.LINKを使ってスーパーオーディオCDやDVDオーディオの音声を再生するためには、再生機器とD/Aコンバーターの双方が著作権保護システム DTCP (Digital Transmission Content Protection)に対応していなければなりません。本機はDTCPに対応しています。

## データ転送速度

i.LINK対応機器のデータ転送速度には、100Mbps (S100)、200Mbps (S200)、400Mbps (S400)の3種類があります。本機の最大データ転送速度は400Mbpsです。接続には、市販のS400対応の6ピンi.LINKケーブルをお使いください。

複数の機器を接続するときに、データ転送速度の遅い機器を間に挟むと、データ転送速度が遅くなります。できるだけデータ転送速度が同じ機器を上流に並べて接続してください。

## フローレートコントロール

本機はi.LINKフローレートコントロール伝送方式に対応しています。フローレートコントロールとは、i.LINK入力より伝送されたオーディオデータを本機内部に設けられたRAM内に一旦蓄積し、本機内蔵の高精度クロックを使いデータをRAMから取り出すことにより、i.LINK伝送時に発生する伝送ジッターを取り除く伝送技術です。再生機と本機とのクロック周波数の誤差により、内蔵のRAMのデータ蓄積が一定量よりも大きくなったり、小さくなったりした場合は、本機より再生機に対して、データ伝送の速度を変化させるコマンドを伝送し、本機が再生機をコントロールします。フローレートコントロールは、対応プレーヤーとの1対1伝送時に機能します。

## 注意

- i.LINKの伝送フォーマットには、本機の「i.LINK (AUDIO)」(A&Mプロトコル)の他に、BSデジタルなどの「MPEG-2 TS」、DVDレコーダーやデジタルビデオの「DV」などがあります。本機にi.LINK (AUDIO)非対応の機器(パソコンの周辺機器など)を接続すると、誤動作や故障の原因になりますので、絶対に接続しないでください。
- データ転送中は、つながっている機器のi.LINKケーブルを抜き差ししたり、電源をオン/オフしないでください。

- i.LINK対応機器によっては、電源がオンになっていないとデータを中継できないものがあります。
- i.LINKに対応していても、機器によっては動作しないことがあります。
- 受信側の機器が本機出力モードに対応していないことがあります。接続する機器の取扱説明書もよくお読みください。

## 複数のi.LINK機器を接続するには

### デジチェーン接続 (数珠つなぎ)

数珠つなぎに一列に接続する場合は、本機を含めて17台まで接続できます。



### ツリー接続

i.LINK端子を3個以上備えている機器がある場合、途中で分岐して接続することもできます。本機を含めて17台まで接続できます。



信号を出力した機器に、同じ信号が戻ってしまうと動作しません。接続が輪(ループ)にならないように注意してください。



この機器のi.LINKインターフェースは、以下の規格に基づいて設計されています。

- 1) IEEE Std 1394a-2000, Standard for a High Performance Serial Bus
- 2) Audio and Music Data Transmission Protocol 2.0

この規格のAM824 sequence adaptation layersの中の、IEC60958 bitstream、DVD-Audio、スーパーオーディオCDに対応しています。

## 工場出荷時の状態に戻すには

設定した内容は、電源プラグを抜いた状態で放置しても半永久的に保持されます。

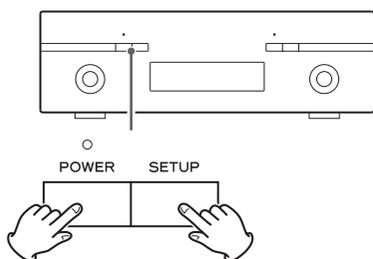
以下の操作をすると、設定した内容を工場出荷時の状態に戻し、すべてのメモリーを消去します。

### 1. 電源をオフにする。

電源がオンだった場合は、POWERボタンを押して電源をオフにしてから30秒以上待ってください。

### 2. SETUPボタンを押しながらPOWERボタンを押す。

ディスプレイに「Setup CLR (設定消去)」が表示されたらSETUPボタンから指を離してください。



## 困ったときは

本機の調子がおかしいときは、サービスを依頼される前に以下の内容をもう一度チェックしてください。また、本機以外の原因も考えられます。接続した機器の使用方法も合わせてご確認ください。

それでも正常に動作しない場合は、お買い上げの販売店または弊社サービス部門にご連絡ください。

## 一 般

### 電源が入らない。

- ➔ 電源プラグをコンセントに差し込んでください。

### リモコンで操作できない。

- ➔ 本体の電源をオンにしてください。(16ページ)
- ➔ 電池が消耗していたら、2本とも新しい電池に交換してください。(15ページ)
- ➔ 本体とリモコンの間に障害物があると操作できません。本体の正面から7メートル以内の距離で、本体の方を向けて操作してください。(15ページ)

### テレビなどが誤動作する。

- ➔ ワイヤレスリモコン機能を持つテレビの一部には、本機のリモコン操作により誤動作するものがあります。

### 音が出ない。

- ➔ 音量つまみを回して音量を調節してください。
- ➔ スピーカーや再生機器との接続を確認してください。
- ➔ 接続した機器の設定を確認してください。
- ➔ スピーカーコードの+と-がショートしている可能性があります。スピーカーコードの接続を確認してください。

### プレーヤーでスーパーオーディオCDを再生したときに音が出ない。

- ➔ スーパーオーディオCDのデジタル音声は、RCA端子とOPTICAL端子では入出力できません。プレーヤーでスーパーオーディオCDを再生する場合は、アナログ音声入力端子(LINE IN)をお使いください。(9ページ)

## デジタル接続した機器の音が出ない。

- ➔ 本機にはドルビーデジタル/DTS/MPEG等のデコード機能がありません。DVDプレーヤー等のデジタル出力端子と接続する場合、プレーヤー側の「デジタル音声出力」の設定はPCMにしてください。または、アナログ音声入力端子(LINE IN)をお使いください。(9ページ)

## ステレオ/サラウンドの定位が不安定。

- ➔ 接続コードの+と-が逆になっているスピーカーがないか確認してください。

## ワードシンク

### 「WRD ERROR!」が表示される。

- ➔ デジタル入力されているソースの周波数がワード周波数と一致していません。ワード出力周波数を変えてみてください。(21ページ)
- ➔ ワードシンク端子の接続や、接続している機器の設定を確認してください。
- ➔ ワード・シンク機能のない機器をお使いの場合は、本機のWORDボタンをオフにしてください。

### 「プツ、プツ……」と周期的なノイズが出る。

- ➔ AI-10がワードシンク・モードなのに、接続している機器がワードシンク・モードになっていない可能性があります。ワードシンク端子の接続や、接続している機器の設定を確認してください。通常はWRD ERROR表示をしますが、AI-10のワード・エラー検出限界よりもさらに小さなずれしかない場合、この現象が起こることがあります。

## i.LINK端子 (有償バージョンアップ後)

### 入力切換をi.LINKにすると音が出ない。

- ➔ プレーヤーでCDや、L/RのみのスーパーオーディオCDを再生しているのに、本機が受けるチャンネルをL/R以外に設定すると、音が出ません。AI-10を1台お使いの場合は、チャンネルをL/Rに設定してください。複数のAI-10を接続する場合は、1台は必ずL/Rに設定してください(22ページ)

### i.LINKインジケーターが点滅する。

- ➔ i.LINK端子に接続されている機器の電源を入れてください。接続を確認してください。
- ➔ i.LINK端子を使わない場合、i.LINKリモート機能(i\_RC)はオフにしてください。(22ページ)

本機はマイコンを使用しておりますので、外部からの雑音やノイズ等によって正常な動作をしなくなることがあります。このような場合は一旦電源を切り、約1分後に始めから操作してください。

## 保護回路について

本機には出力短絡保護回路と過熱保護回路が内蔵されています。

出力短絡保護回路が働くと、「OVER LEVEL」がディスプレイで点滅します。スピーカーケーブルの+と-がショートしている可能性がありますので、主電源スイッチをオフにして、スピーカーとの接続を確認してください。接続に問題が無い場合は、音量が大きい為に出力保護回路が働いている可能性があります。音量つまみを左に回して音量を少し下げてください。

過熱保護回路が働くと、「HIGH TEMP」がディスプレイで点滅します。内部の温度が高くなっていますので、主電源スイッチをオフにして温度が下がるまでお待ちください。

また、放熱をよくするために、風通しの良い場所に設置してください。

原因を取り除いても保護回路が働く場合は、弊社サービス部門にご連絡ください。

# 仕 様

## デジタル入力

入力フォーマット..... リニアPCM(44.1~192kHz、16~24bit)  
DSD(有償バージョンアップ後)

### 同軸デジタル入力

端子..... RCA端子×1  
入力レベル..... 0.2Vp-p以上/75Ω

### 光デジタル入力

端子..... 光デジタル端子×1  
光デジタル入力レベル..... -24.0~-14.5dBm peak

有償バージョンアップすると、i.LINK(AUDIO)端子(4ピン×1、6ピン×1)が増設されます。

## オーディオ特性

定格出力..... 120W+120W (1kHz、8Ω負荷)、150W+150W (1kHz、4Ω負荷)  
実用最大出力..... 150W+150W (1kHz、8Ω負荷、JEITA)  
対応最小負荷..... 4Ω  
全高調波歪率..... 0.08% (1kHz、120W出力、8Ω負荷)  
周波数特性 (COAXIAL、OPTICAL)..... 5Hz~95kHz (-3dB) (1W出力、8Ω負荷)  
S/N比 (COAXIAL、OPTICAL)..... 110dB以上 (JEITA)  
入力感度 (ボリュームMAXで定格出力を得るレベル)..... LINE入力: 150mVrms  
LINE4 PHONO(MM)入力: 3.2mVrms  
入力インピーダンス... LINE1: 66kΩ、LINE2~4: 100kΩ、LINE4 PHONO(MM): 39kΩ  
RIAA偏差..... PHONO(MM): ±0.5dB (20Hz~15kHz)

## ワードシンク

端子..... BNC  
出力レベル..... TTLレベル相当/75Ω  
ワードクロック出力周波数..... 44.1, 88.2, 176.4, 48, 96, 192, 100 (kHz)

## 一般

電源..... 100V AC 50-60Hz  
消費電力..... 135W  
外形寸法 (WxHxD、突起部を含む)..... 442mm x 149mm x 383mm  
質量..... 14.5kg  
許容動作温度..... +10℃~+30℃  
許容動作湿度..... 5%~85%(結露のないこと)  
許容保管温度..... -20℃~+55℃

## 付属品

電源コード×1	フェルト×3枚
リモコン(RC-1056)×1	取扱説明書×1
リモコン用乾電池(単3)×2本	ご愛用者カード×1

JEITAは電子情報技術産業協会規格に定められた測定法によるものです。

仕様及び外観は改善のため予告なく変更することがあります。

取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。

# 保証とアフターサービス

## ■保証書

保証書はご愛用者カードと引き換えに発行いたします。添付のご愛用者カードに必要事項を御記入の上、速やかにお送りください。保証書が届きましたら、保証内容をご確認の上、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から一年です。

### 無料修理規定

- 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った正常な使用状態で保証期間内に故障が発生した場合には、弊社サービス部門が無料修理いたします。
- 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、保証書をご提示の上、弊社サービス部門またはお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。商品を送付していただく場合の送付方法については、事前に弊社サービス部門にお問い合わせください。なお、離島および離島に準じる遠隔地への出張修理を行った場合は、出張に要する実費を申し受けます。
- ご転居、ご贈答品等でお買い上げの販売店に修理をご依頼になれない場合は、弊社サービス部門にご連絡ください。
- 次の場合には保証期間内でも有料修理となります。
  - ご使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷
  - お買い上げ後の輸送・移動・落下などによる故障および損傷
  - 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障および損傷
  - 接続している他の機器に起因する故障および損傷
  - 業務用の長時間使用など、特に苛酷な条件下において使用された場合の故障および損傷
  - メンテナンス
  - 保証書の提示がない場合
  - 保証書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名(印)の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合
- 保証書は日本国内においてのみ有効です。  
This warranty is valid only in Japan.
- 保証書は再発行いたしませんので、紛失しないよう大切に保管してください。

## ■補修用性能部品の保有期間

当社は、この製品の補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を製造打ち切り後8年間保有しています。

## ■ご不明な点や修理に関するご相談は

修理に関するご相談、並びにご不明な点は、お買い上げの販売店または弊社サービス部門(裏表紙に記載)にお問い合わせください。

## ■修理を依頼されるときは

24～25ページの「困ったときは」に従って調べていただき、なお異常のあるときは使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店または弊社サービス部門にご連絡ください。

なお、本体の故障もしくは不具合により発生した付随的損害(録音内容などの補償)の責についてはご容赦ください。

## 保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。保証書の規定に従って、修理させていただきます。

## 保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

## 修理料金の仕組み

技術料：故障した製品を正常に修復するための料金です。測定機等の設備費、技術者の人件費、技術教育費が含まれています。

部品代：修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料：製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

## 修理の際ご連絡いただきたい内容

型名：デジタル・プリメインアンプ AI-10

お買い上げ日：

販売店名：

お客様のご連絡先

故障の状況(できるだけ詳しく)

## ■廃棄するときは

本機を廃棄する場合に必要な収集費などの費用は、お客様のご負担になります。

## 分解・改造禁止

この機器は絶対に分解・改造しないでください。

この機器に対して、当社指定のサービス機関以外による修理や改造が行われた場合は、保証期間内であっても保証対象外となります。

当社指定のサービス機関以外による修理や改造によってこの機器が故障または損傷したり、人的・物的損害が生じてても、当社は一切の責任を負いません。

## 音のエチケット

楽しい音楽も、場合によっては大変気になるものです。静かな夜間には小さな音でもよく通り、隣近所に迷惑をかけてしまうことがあります。

適当な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドホンを使用するなどして、お互いに快適な生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。



## 株式会社ティアック エソテリック カンパニー

〒180-8550 東京都武蔵野市中町3-7-3

<http://www.teac.co.jp/av>

### この製品のお取り扱い等に関するお問い合わせは

AVお客様相談室までご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、  
土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30～12:00/13:00～17:00です。

#### AVお客様相談室



**0570-000-701**

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

〒180-8550 東京都武蔵野市中町3-7-3

電話：0422-52-5091 / FAX：0422-52-5194

### 故障・修理や保守についてのお問い合わせは

ティアック修理センターまでご連絡ください。  
お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30～17:00です。

#### ティアック修理センター



**0570-000-501**

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

〒190-1232 東京都西多摩郡瑞穂町長岡2-2-7

電話：042-556-2280 / FAX：042-556-2281

- ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。携帯電話・PHS・自動車電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号にお掛けください。
- 新電電各社をお使いの場合はナビダイヤルをご利用いただけないことがあります。その場合はご契約されている新電電各社へお問い合わせいただくか、通常の電話番号にお掛けください。
- 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。